



藤沢記者クラブ各位

令和7年産の藤沢産酒米で「藤田熊醸」が出来上がりました！

藤沢市では、多面的な機能を持つ水田の保全に取り組んでいます。藤沢のお米を日本酒に加工し付加価値を高め、持続可能な農業を実現する地産地消の取り組みとして、令和7年産の藤沢産酒米による「藤田熊醸」が出来上がりました。

■取組概要

米価の大きな変動、生産資材の高騰、水稻生産者の高齢化及びインフラの老朽化などにより、藤沢市の水田は年々減少しています。また、水田は食料生産のほか、洪水発生抑制、景観保全及び生物多様性への貢献など、多面的な機能を持っており、市民共有の財産として保全が必要です。このことから、藤沢の米を日本酒に加工し、付加価値を高めることで、持続可能な農業を実現する地産地消の取り組みです。

■商品概要

- ・ 名称：ふしたくまじょう 藤田熊醸
- ・ 種別：純米酒（精米歩合60%）
- ・ 米の品種：五百万石
- ・ 製造者：熊澤酒造株式会社
- ・ 内容量、価格：1, 800ml、3, 685円（税込）
720ml、2, 200円（税込）
- ・ 取扱店：北村商店、藤沢とちぎや、勝浦酒店、へいわ酒店、
JA さがみわいわい市藤沢店

※限定品のため、販売数に限りがあります。



【藤田熊醸】

■取組経過

- ・ 酒米プロジェクトに取り組み、全量地元産の酒米で酒造りを希望されていた『熊澤酒造』から、酒米作りに協力可能な水稻生産者の紹介について依頼があり、2021年に「さがみ農協藤沢市稲作部会」のメンバー3名が酒米「五百万石」を栽培し、藤沢産酒米の取り組みがスタートしました。
- ・ 2022年には藤沢産酒米100%の日本酒造りを目指し、稲荷・西俣野・高倉の圃場で酒米作りに取り組み、「藤田熊醸」が生まれました。

■水田の持つ多面的機能

○生物多様性を支えています

水田は多くの生きもののすみかであり、人の手で守られることで、多様な命を育んでいます。一度失われると再生が困難なため、豊かな生態系を支える水田の保全は、生物多様性を守る上でとても重要です。

写真 水田を活用している生きもの
(シュレーゲルアオガエル)



○水田が持つ洪水防止機能

6月2日から3日にかけて藤沢市に接近した台風第6号が通過直後とその後の田んぼの様子を比較した写真です。橋の奥に続いている畦道が水没しているのがわかります。このように水田には雨水を貯留して、河川へ流れる量を調整したり、市街地への流入を防ぐ天然のダムのような機能があります。

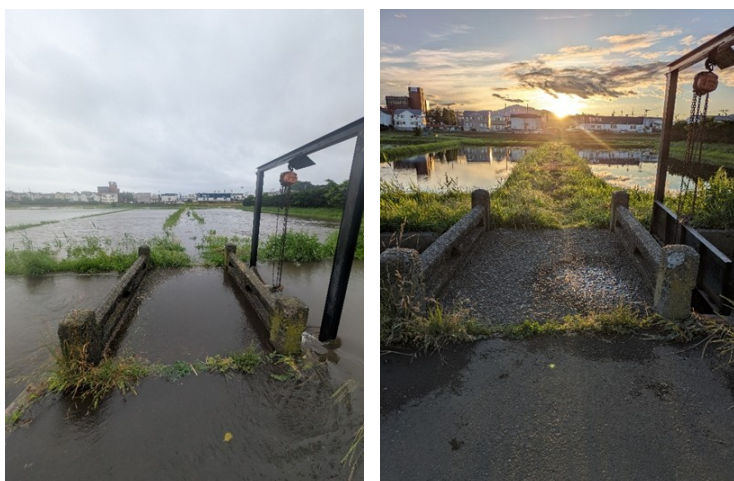


写真 台風通過直後（写真左）から時間を経て、徐々に水が引いて行っている様子

その他、良好な景観を形成、農業体験・学習・交流の場など、市民共有の財産として、後世に残していくべき様々な役割を担っています。

以上